

# 日本海地震・津波プロジェクト

## 沖合構造調査

国立研究開発法人

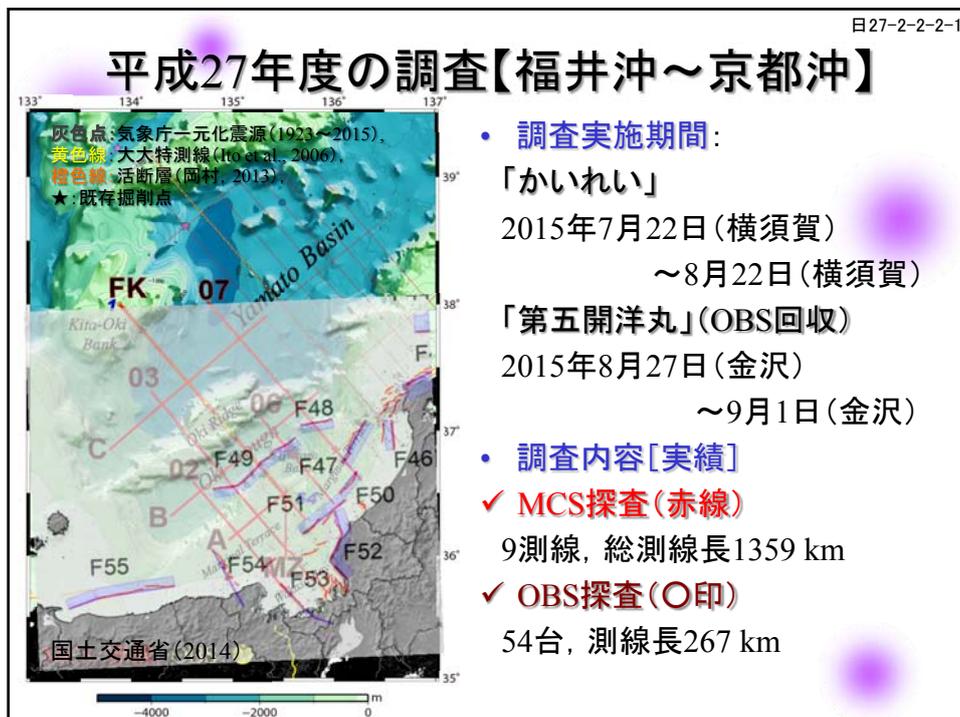
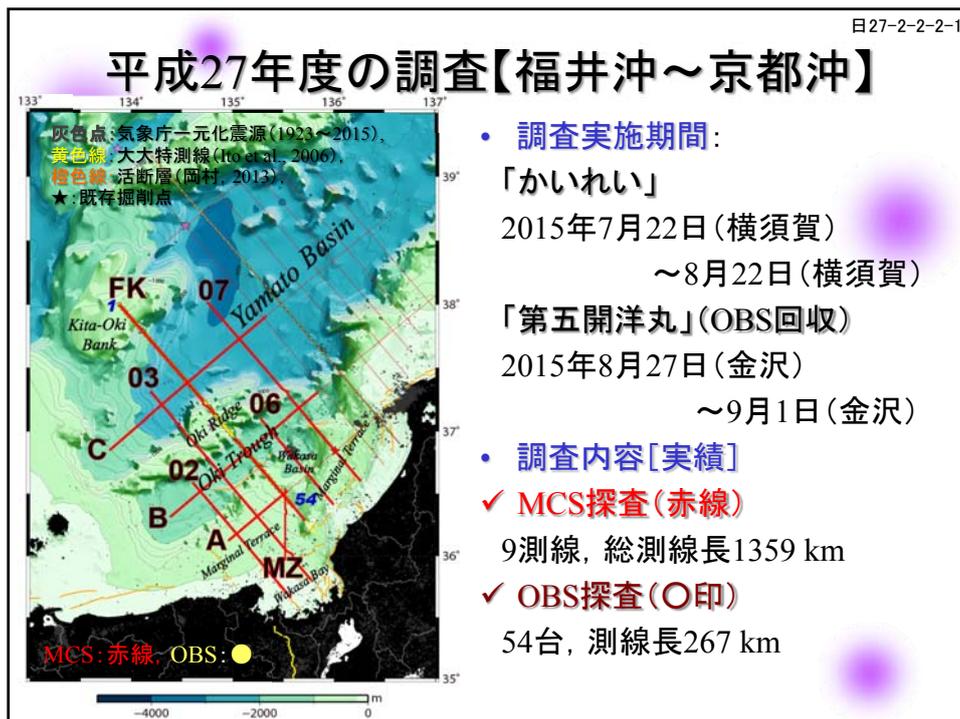
海洋研究開発機構

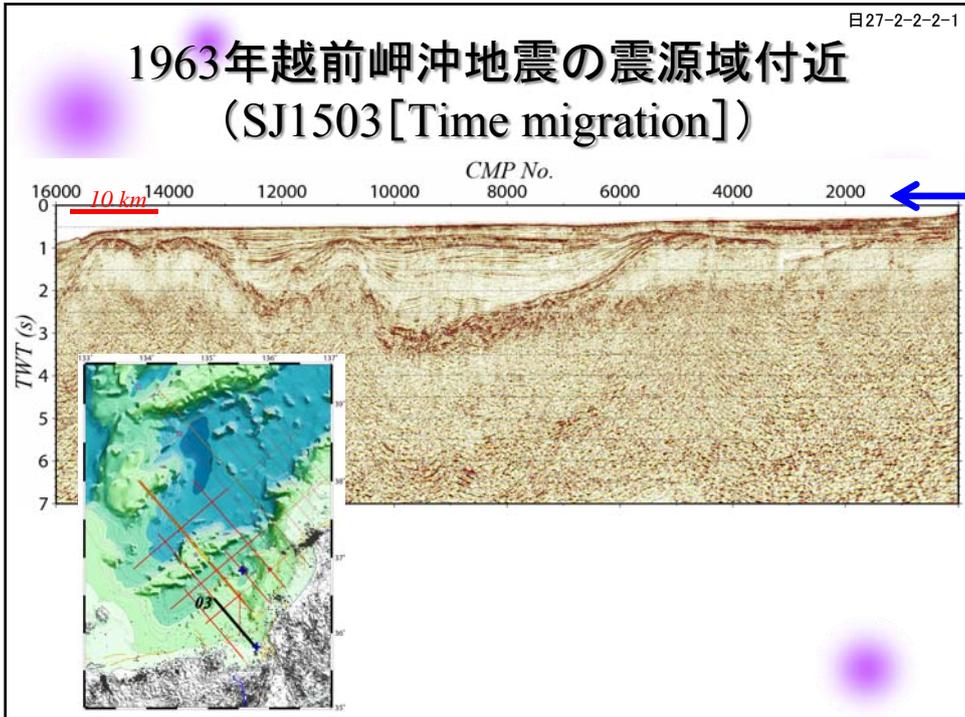
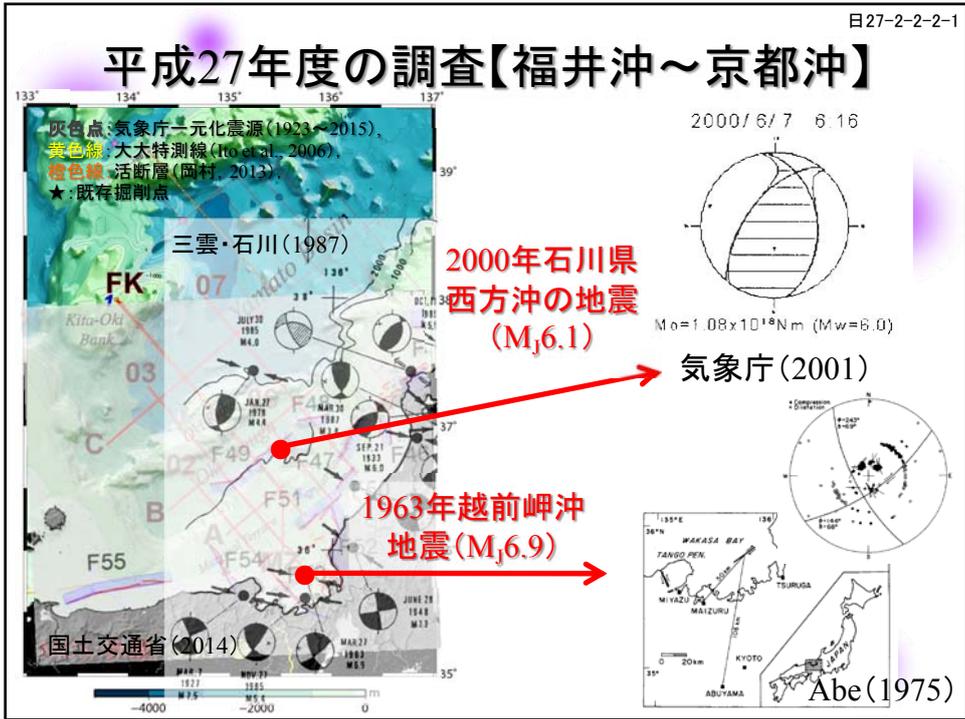


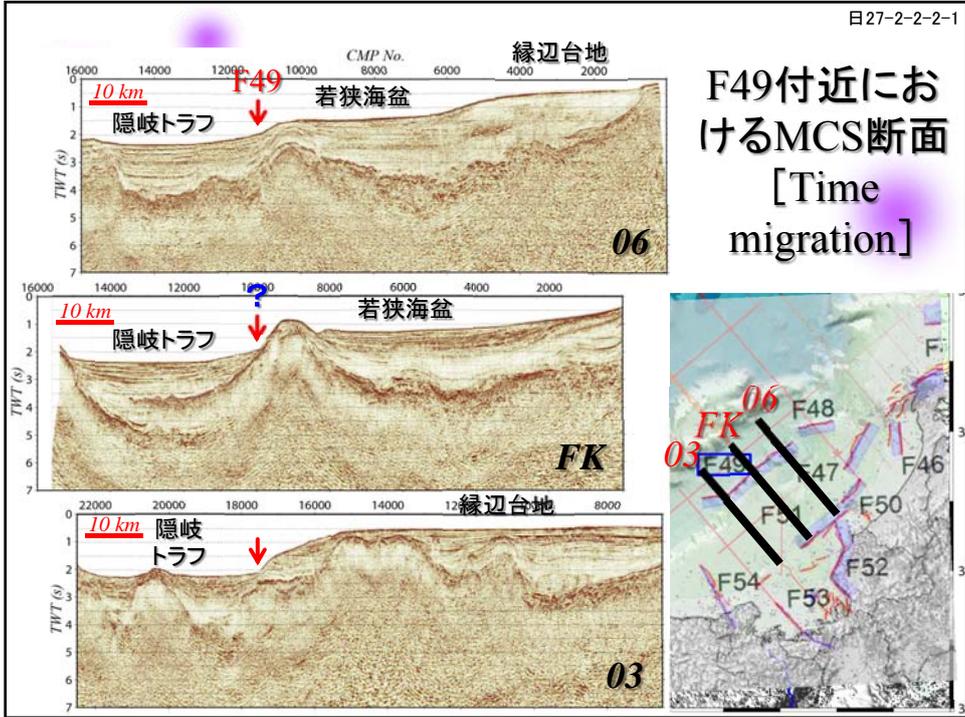
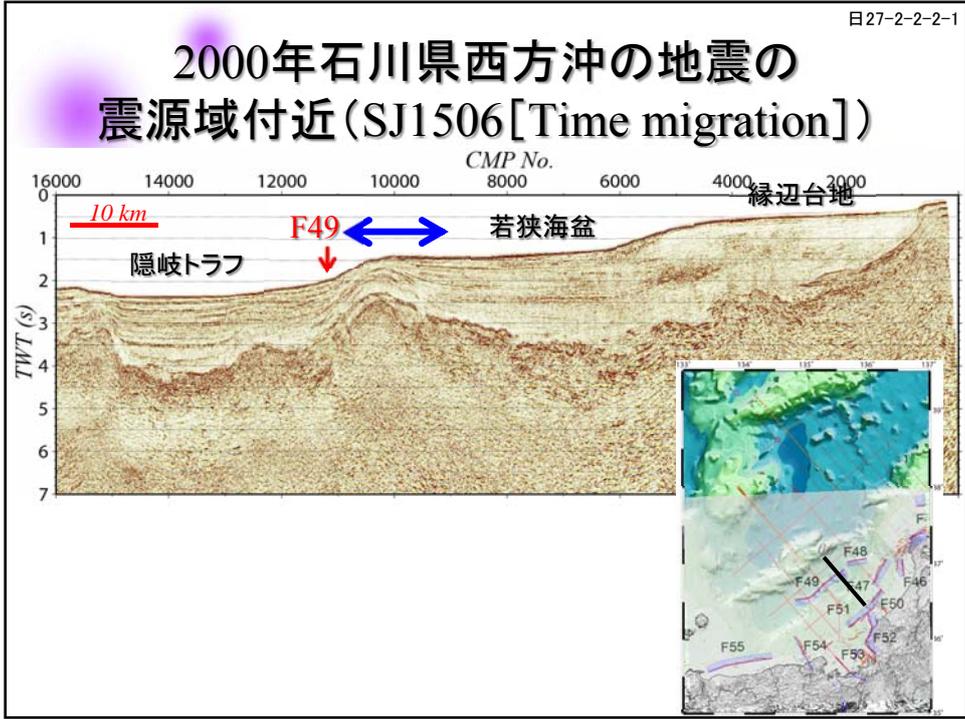
### 沖合構造調査(線表)

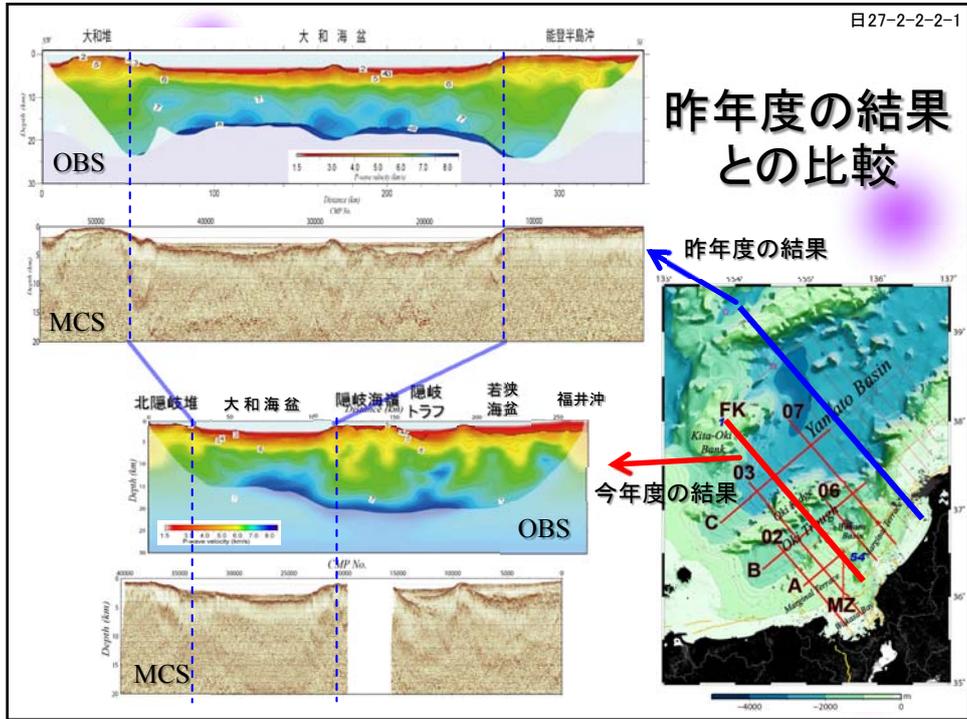
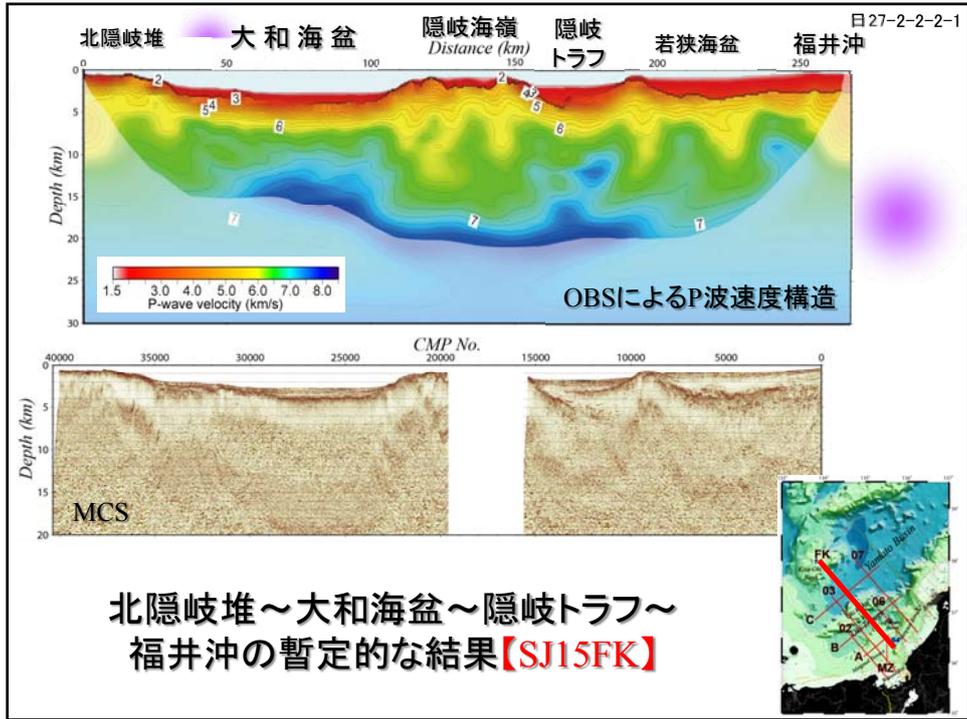
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
① 歴史地震・古津波調査		新潟・北陸地域	山陰・九州		東北/北海道			総合解析
② 海域構造調査								
(1) 沖合反射法地震探査	北陸沖縦断データの検討	北陸沖海溝	北陸沖海溝	北海道沖海溝	北海道沖海溝	東北沖		総合解析
(2) 海域プレート構造調査	大和海域の構造調査(広帯域OBS)				日本海盆の構造調査(広帯域OBS)			総合解析
③ 沿岸海域および海陸統合構造調査	北陸沖沿岸調査 高山トラフ横断 飛騨-能登半島沖	山陰-九州沿岸調査 若狭沖	山陰-九州沿岸調査 鳥根沖		北海道沖・北東北沿岸調査 札幌沖	北海道沖・北東北沿岸調査 下北沖	北海道沖・北東北沿岸調査 酒田沖	総合解析

**目的:** 北海道北西沖～鳥取沖にかけての日本海の沿岸部から大和海盆・日本海盆に至る海域において、長大ストリーマケーブルを用いたマルチチャンネル反射法地震探査と海底地震計を用いた地震探査を実施し、日本海の地殻構造・断層の位置と形状を明らかにする。









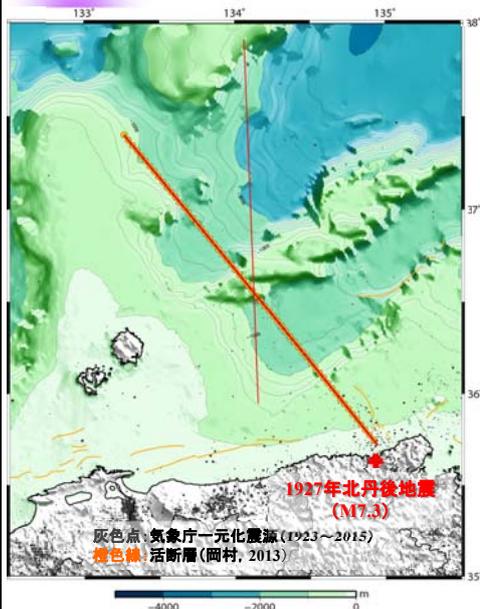
日27-2-2-1

## まとめ

- MCS探査の暫定的な結果から、隠岐トラフ南縁に発達する断層(F49)は途中で切れている可能性があり、今後改めて検討の必要がある。
- F49などの断層の空間的な連続性をより特定させるためには、3D地震探査など新たな観測も必要である。
- OBS探査の暫定的な結果から、隠岐海嶺・北隠岐堆は大陸地殻的な構造となっており、大和海盆は厚い海洋地殻的な構造となっている。隠岐トラフから福井沖においては、大陸地殻に近い構造ではあるが、上部地殻の不均質性が大きく、能登半島沖と比較すると地殻の厚さが薄くなっている可能性がある。

日27-2-2-1

## 平成28年度の調査計画案(兵庫沖～鳥取沖)



- 調査予定時期(調整中):  
2016年8月
- 調査内容  
(測線の詳細は現在調整中):  
✓ MCS探査(実線)  
✓ OBS探査(丸印)
- 特記事項:  
✓ 漁業関係や他機関との調整上、調査エリアやエアガン発震の期間が制約される見込み。  
✓ 浅海域でのOBSの設置に関する調整が難航している。